

## 広島県公立高校入試 令和5年度(2023年度)変更点

### 広島県教育委員会が掲げる3つの力

- 自己を認識する力

自分は何が好きなのか、自分はどのような人間なのかなど、自分自身のことを理解することができる力。

- 自分の人生を選択する力

自分の夢や目標・やりたいことなどについて、自分で考え、選択し、自分の意志で決めることができる力。

- 表現する力

自分自身のことや自分の意見などを、相手に理解してもらえようように、相手や場面に応じて、言葉の使い方や表現の仕方などを工夫しながら伝えることができる力。

・2023年度からの新しい入試制度では、これらの力が受検生にどの程度身についているのかを評価するために、選抜内容・

方法が変更されます。 受検生が自分の進路の希望などに合った高校・学科・コースを選択できるようにするため、以下の内容が事前に公表されることになっています。

① 教育目標(スクールポリシー)

② 育てたい生徒像

③ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

④ 選抜方法(実施する検査の項目や配点)

特に重要なのは、③ 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)、④ 選抜方法です。

志望校に合格するために、「どのような選抜を通過する必要があるのか」「どのような力をつけておく必要があるのか」を、しっかりと確認しましょう。

## 選抜方法の変更点

2023年度から試験期間の短縮化と授業時間の確保のため、今までの選抜Ⅰと選抜Ⅱが統合され、すべての高校で「一次選抜」が実施されます。合格者が入学定員に満たなかった学科・コースでは、「二次選抜」が実施されます。

「一次選抜」の実施により、これまでは選抜Ⅰと選抜Ⅱで異なる高校を受検することも可能でしたが、それができなくなりました。受検のチャンスは原則「一次選抜」の1回となります。上記の高校から事前に公表される①教育目標(スクールポリシー)や②育てたい生徒像などを確認し、出願校を慎重に選択することが求められます。

## 「一次選抜」の 2 つの選抜方式

「一般枠」と「特色枠」という 2 つの選抜方式があり、一部の学科・コースでは、特色枠による選抜が実施されます。

### ● 一般枠による選抜

すべての学科・コースに共通する選抜方式で、入学定員の **50%** **以上の合格者**をこの「一般枠」で決定します。一般枠による選抜のみを実施する学科・コースでは、全受検生の合否をこの方式で決定します。

### ● 特色枠による選抜

学科・コースの特色が出る内容で実施する選抜方式で、入学定員の **50% 以内の合格者**をこの「特色枠」で決定します。なお、特色枠による選抜を実施する学科・コースでは、特色枠の選抜で合格者を決定した後、合格とならなかった受検生を対象に、一般枠の選抜方式で合格者を決定します。

## 重視される点と新たに追加され「自己表現」について

### ● 学力検査をより重視

合格者は、学力検査・調査書(内申書)・自己表現の3つの得点の合計点で決まります。これらの比重は、学力検査・調査書(内申書)・自己表現の合計を10割として、**「学力検査：調査書：自己表現 = 6：2：2」**で計算されます。つまり、これまでの計算方法よりも**学力検査が重視される**のです[現行の入試制度(選抜Ⅱ)では、一般学力検査(125点満点)・内申点(130点満点)でほぼ同等]。

また、学力検査の外国語(英語)では、4技能(聞く・読む・話す・書く)を総合的に評価するための検査の実施が検討されています。

※学力検査は、国語・社会・数学・理科・外国語の5教科各50点満点ですが、一部の高校では、従来の傾斜配点と同様に教科の配点が異なる場合があります。

- 調査書(内申書)では中3時の評定をより重視

調査書には、中1から中3までの学習の記録(評定)が、9教科×5段階評価で記入されます。現行制度では全学年が同じ比重で「中1：中2：中3=1：1：1」で計算されますが、2023年度入試からは「中1：中2：中3=1：1：3」と中3が3倍になり、中3時の評定がより重視されます。中1・中2の時に自分の力を十分に出せていない場合でも、中学校卒業までにしっかりと力をつけることができれば、希望する進路に進むことができるでしょう。

※一部の学科・コースでは、特色枠による選抜で、教科の配点が異なる場合があります。

- 調査書は選抜に必要な項目のみの記載に

調査書に記載される内容は、志望校、氏名、性別、学習の記録(評定)などの選抜に必要な項目のみとなります。これまで記載されていた「特別活動の記録」などは、調査書から記入欄がなくなります。

- 面談方式で受検生全員に「自己表現」を実施

**「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる**

**力」がどのくらい身についているのかを見る**ため、受検生全員

に「自己表現」が実施(面談方式)されます。自分自身のことや、高校入学後の目標などについて、自分で選んだ言葉や方法で表現することが求められます。

また、受検会場で「自己表現カード」を作成します。自己表現の補助的な資料で、文章がうまく書けている、文字数が多いなど、このカード自体を評価されることはありません。

- 学科・コースによって独自の検査を追加実施

学科・コースによっては、現行制度と同様に、特色に応じて独自の学力検査や作文、実技検査など、独自の検査が追加される場合があります。独自検査を実施する学科・コースでは、独自検査の得点を含めた合計点により合格者を決定します。どの学科・コースで独自検査が実施されるかは、「入学者選抜実施内容シート」で確認することができます。

## まとめ

- 選抜Ⅰと選抜Ⅱが統合され、チャンスは実質1回となる。
- 学力検査が重視され、評定も中3の比重が非常に高くなる。
- 面接方式で「自己表現」が追加され、自分の言葉で表現できるようになる必要がある。